

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2015年12月発行)

第1回調査

11月後半の就職意識調査

2年連続でのスケジュール変更が決まり、慌ただしく幕を開けようとしている2017年卒者の就職戦線。スタート時期は3月のままだが、選考解禁が6月へと2カ月前倒しとなることで、学生の意識や準備状況は2016年卒の学生と比べどのように変化しているだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、11月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」66.3%、「楽になる」33.7%
- 前年調査に比べると、楽観的な見方が増加

2. 11月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」21.2%。前年同期より約3ポイント増加
- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」。
- 上位項目は前年同期調査と変わらず

3. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」15.3%、「大手企業」34.5%。大手志向強まる

4. 就職活動準備に関して

- 11月までの就活準備は「学内のガイダンスに参加」71.0%、「自己分析」69.9%
- 情報の仕入れ先は「就職情報サイト」95.9%、「企業の採用サイト」55.8%

5. 企業を判断するために知りたいこと

- 「仕事内容・職種」76.5%、「福利厚生」69.8%、「社風・職場の雰囲気」68.9%の順

6. インターシップの参加状況と今後の参加意向

- モニター全体の74.6%が参加経験あり。前年同期より6ポイント増加
- 応募理由は「企業研究・業界研究のため」81.0%、「職業体験のため」74.1%
- 今後の意向、「参加したい」90.7%。参加したい時期は「2月」86.0%、「1月」62.3%の順

7. 新スケジュールへの考え

- 6月選考解禁に「賛成」43.2%、「反対」23.0%
- 採用広報開始の望ましい時期は「3年生の12月」28.0%、「3年生の9月以前」20.9%
- 選考解禁の望ましい時期は「4年生の4月」32.2%、「3年生の3月」18.8%

調査概要

- 調査対象：2017年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：961人（文系男子325人、文系女子329人、理系男子188人、理系女子119人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2015年11月17日～25日
サンプリング：キャリタス就活2017学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

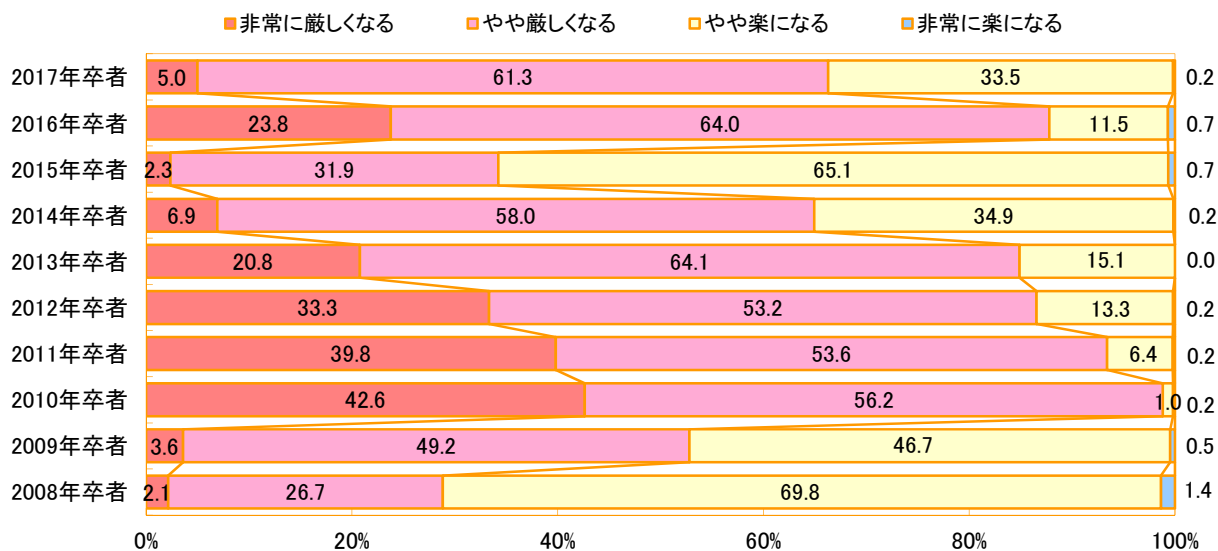
1. 就職戦線の見方

2017年卒の就活生は、自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのだろうか。その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」5.0%、「やや厳しくなる」61.3%で、厳しくなると見ている者の合計は66.3%。前年調査(87.8%)と比べると、厳しくなるとの見方は20ポイント余り減少した。「やや楽になる」33.5%、「非常に楽になる」0.2%を合わせると33.7%となり、3人に1人が楽観的な見方を示した。

過去のデータを振り返ると、「非常に厳しくなる」の割合が大きく動いたのは、リーマン・ショック後の2009年卒者(3.6%)から2010年卒者(42.6%)にかけてだが、その後、企業が人材確保に積極的になり、その比率は年々減少していった。前年調査(2016年卒者)では売り手市場にもかかわらず再び増加したが(23.8%)、その理由に大幅なスケジュール変更への不安を挙げる声が大勢を占めていた。

今回、新スケジュールをめぐる混乱から、「厳しい」と見る学生が6割強という結果となったが、一方で、前年より小幅な変更であることや、企業の採用意欲が引き続き高いことなどから、先輩たちに比べれば「楽になる」と見る学生が増えたのだろう。

就職戦線の見方



■「厳しくなる」と見る理由

- 内々定をもらえる時期が前倒しになり、非常に短期決戦になる予感がするから。3月からの動き出しでは遅れてしまう危険があると思う。 <文系女子>
- 就活の期間が短くなるので、エントリーシートの提出などが集中し大変になると思われる。また、2016卒はかなり売り手市場だったため、その反動で厳しくなると考えている。 <文系男子>
- 就活時期が毎年コロコロ変わっているので、先輩からの情報などで対策を取ることが難しい。主体性を持って情報収集しないと、チャンスを逃すことにつながりそうだと思うので。 <理系女子>
- 就活を早期に開始する人たちが前年に比べて増加すると思われるから。 <理系男子>

■「楽になる」と見る理由

- 大企業には好景気であるように感じているため、大企業を受ける限りにおいては楽になりそう。 <文系男子>
- 2016卒の採用に上手くいかなかった企業が、採用数を増やすと思うから。 <文系女子>
- 2016年入社の方はスケジュールがずれた最初の年でした。2017年卒はそれを参考にできるため、比較的楽になると考えています。 <理系男子>
- 就活期間が短縮されたため、費用面での負担が減少すると思う。 <文系男子>

2. 11 月後半時点での志望業界

11 月の調査時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く、57.3%と 6 割弱。「明確に決まっている」学生は 21.2%で、前年同期調査 (18.4%) より約 3 ポイント増えた。就職活動本番まで時間はあるが、2 割以上は既に明確に志望業界を決めていることがわかった。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「銀行」が 27.8%で最も多く、次いで「水産・食品」23.7%、「医薬品・医療関連・化粧品」18.4%と続く。順位の入替えはあるものの、上位の顔ぶれは前年調査とほぼ同じ。

文系は男女とも「銀行」が首位で、男子は 2 位「商社 (総合)」、3 位「運輸・倉庫」と続き、女子は 2 位「マスコミ」、3 位「水産・食品」となっている。理系は男子が「電子・電機」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。「水産・食品」は文理問わず女子で順位が高く、女子の人気業界となっている。

志望業界の決定状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	21.2	18.4	24.6	15.5	22.9	25.2
なんとなく決まっている	57.3	58.5	52.9	57.1	62.8	61.3
決まっていない	21.4	23.1	22.5	27.4	14.4	13.4

志望業界 (上位 20 業界)

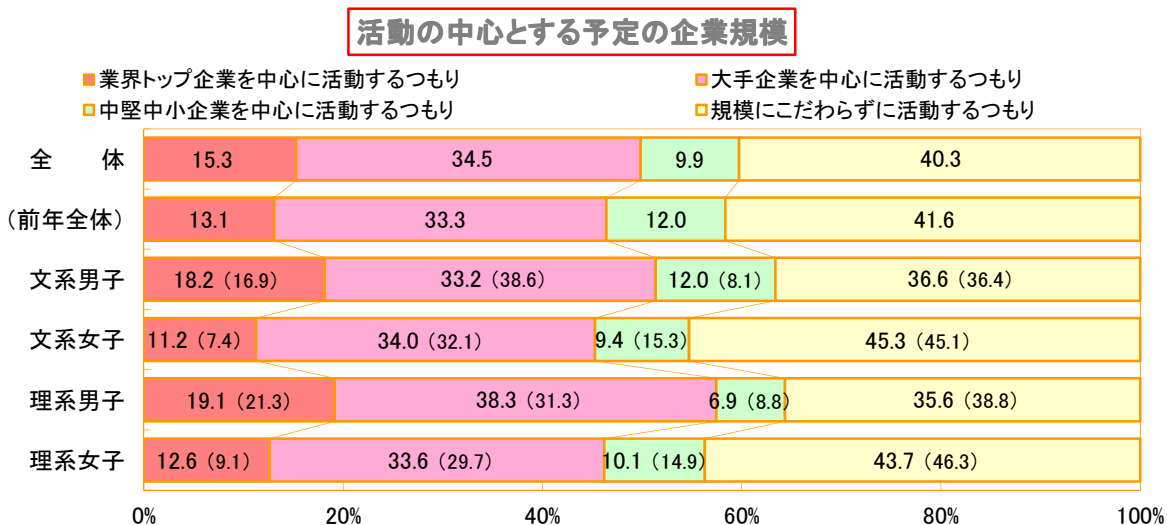
全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	銀行 ② 27.8	銀行 39.7	銀行 35.6	電子・電機 23.6	医薬品・医療関連・化粧品 51.5				
2	水産・食品 ① 23.7	商社 (総合) 22.2	マスコミ 28.0	医薬品・医療関連・化粧品 21.7	水産・食品 41.7				
3	医薬品・医療関連・化粧品 ③ 18.4	運輸・倉庫 19.8	水産・食品 25.5	エネルギー 19.9	素材・化学 33.0				
4	マスコミ ⑤ 16.6	保険 18.7	ホテル・旅行 20.1	自動車・輸送用機器 19.9	官公庁・団体 17.5				
5	商社 (総合) ⑥ 15.5	調査・コンサルタント 17.9	保険 17.6	情報・インターネットサービス 19.9	エネルギー 12.6				
6	官公庁・団体 ⑦ 14.7	水産・食品 17.1	商社 (総合) 16.3	水産・食品 19.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.6				
7	調査・コンサルタント ⑧ 14.2	商社 (専門) 16.7	医薬品・医療関連・化粧品 15.5	素材・化学 19.9	情報・インターネットサービス 11.7				
	保険 14.2	マスコミ 15.5	官公庁・団体 13.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.1	精密機器・医療用機器 9.7				
9	素材・化学 ④ 13.0	官公庁・団体 15.5	商社 (専門) 11.3	調査・コンサルタント 16.1	調査・コンサルタント 9.7				
10	運輸・倉庫 12.8	建設・住宅・不動産 14.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 11.3	官公庁・団体 13.7	マスコミ 8.7				
11	情報・インターネットサービス ⑨ 11.7	証券・投信・投資顧問 12.7	運輸・倉庫 10.9	機械・プラントエンジニアリング 13.7	印刷・パッケージ 8.7				
12	建設・住宅・不動産 11.1	情報・インターネットサービス 10.3	教育 10.9	建設・住宅・不動産 11.8	教育 7.8				
	電子・電機 ⑨ 11.1	電子・電機 10.3	調査・コンサルタント 10.9	銀行 11.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.8				
14	エネルギー 10.5	自動車・輸送用機器 9.9	建設・住宅・不動産 10.0	通信関連 11.2	銀行 6.8				
15	ホテル・旅行 10.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 9.5	エンターテインメント 8.8	運輸・倉庫 10.6	電子・電機 6.8				
	商社 (専門) 10.2	エネルギー 9.1	情報・インターネットサービス 7.5	商社 (総合) 10.6	農業・林業・鉱業 6.8				
17	自動車・輸送用機器 9.9	ホテル・旅行 9.1	人材紹介・人材派遣 7.5	精密機器・医療用機器 9.9	O A 機器・家具・スポーツ・玩具他 5.8				
18	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.9	信販・クレジット・ファイナンス 7.5	自動車・輸送用機器 6.7	鉄鋼・非鉄・金属製品 8.7	通信関連 5.8				
19	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 6.7	O A 機器・家具・スポーツ・玩具他 6.3	保険 8.7	機械・プラントエンジニアリング 4.9				
20	教育 7.3	素材・化学 6.7	素材・化学 6.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.8	建設・住宅・不動産 4.9				
				農業・林業・鉱業 6.8	商社 (総合) 4.9				

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

3. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業規模を尋ねたところ、「業界トップの企業を中心に活動するつもり」15.3%、「大手企業を中心に活動するつもり」34.5%で、いわゆる大手狙いの学生は半数近く(49.8%)に上る。前年調査(46.4%)から3.4ポイント増えたが、景況感に加え、2ページで確認したように就職戦線を楽観的に見る学生が増えたことと関連がありそうだ。「規模にこだわらずに活動」は40.3%と前年(41.6%)より微減した。

これを文理男女別に見ると、女子に「規模にこだわらずに活動」と答える割合が高く、文理とも4割を超えている。これに対し、男子は「業界トップ」「大手企業」の割合が女子に比べ高いなど、男女で志向の差が見られる。



※()内は2014年の同調査での11月現在の数値

■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

○レベルが高い環境に身を置くことでレベルの高い人脈、能力を身につけたい。業界トップは選考を通過するために求められる能力の水準も当然高い。入社後は当然のこと、選考段階でハイレベルな環境を経験したい。

<文系男子>

○研究開発職を希望なので、研究開発予算を十分確保できる、大手トップ企業を希望している。

<理系男子>

○親が喜ぶようなところに就職したいから。安定したところがいいから。

<文系女子>

■「大手企業」を中心に活動する理由

○新卒で働くということを考えると、大手企業の方が人材教育などに関してしっかり行っているイメージがあるため。

<理系男子>

○今後の結婚や出産といったライフイベントを考えると、大手企業の方が女性に優しい制度が充実していて福利厚生も手厚いと思うから。

<文系女子>

○海外赴任を希望しているため、なるべく大規模な企業の方が、機会が多いと考えるから。

<文系男子>

■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

○企業の歯車にならずに、自分で考えて業務ができる環境をのぞんでいるから。

<文系男子>

○大手は競争率が激しいため、優良な中小企業を見つけ、そこに確実に就職したい。

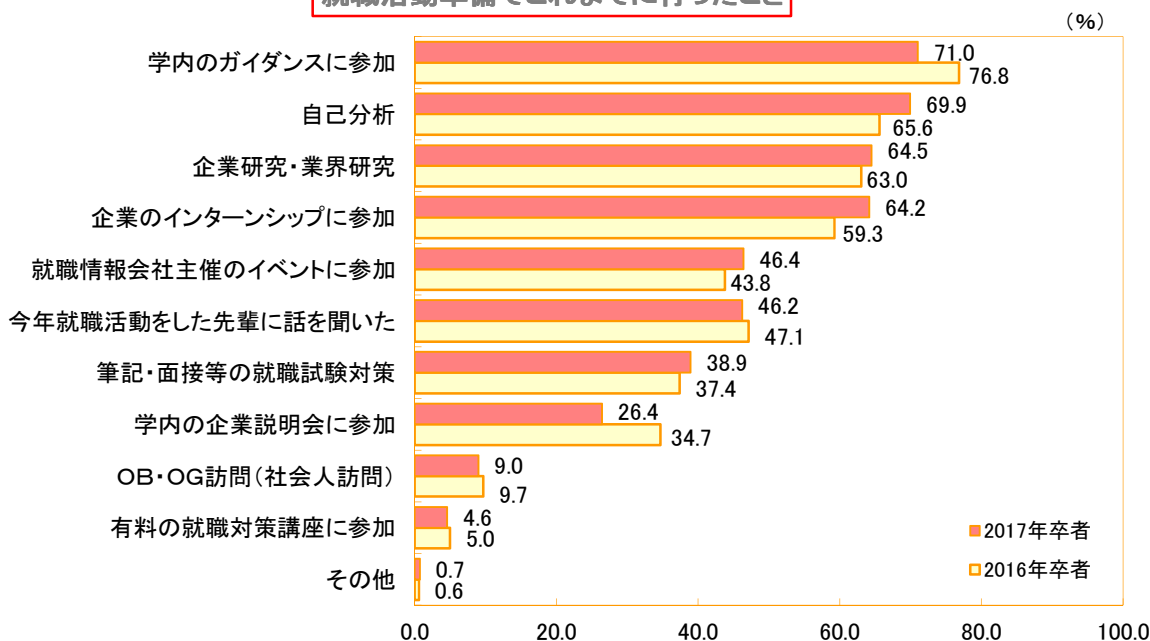
<文系女子>

4. 就職活動準備に関して

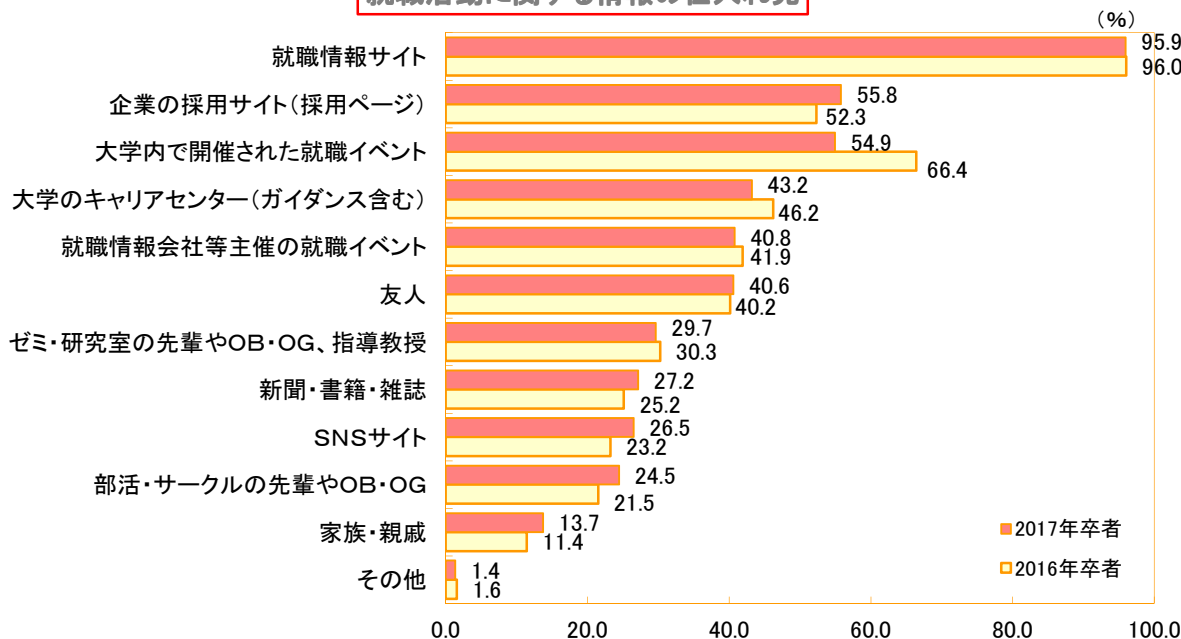
就職活動の準備を始めていると回答した学生（全体の 97.3%）に対し、準備として行った内容を尋ねた。「学内のガイダンスに参加」が最も高いが、前年調査の 76.8%から 71.0%へと 6 ポイント近く減少した。大学関連では「学内の企業説明会に参加」も 34.7%から 26.4%へと大きく数値を下げている。一方で、「自己分析」69.9%、「企業のインターンシップに参加」64.2%などは前年より増加した。

就職活動に関する情報の仕入れ先で最も多いのは「就職情報サイト」で、95.9%と今年も 9 割以上に上る。採用広報解禁前の就職情報サイトにはインターンシップ情報が公開されており、学生にとって大きな情報源であることがよくわかる。次いで「企業の採用サイト」(55.8%)が続き、早い段階から学生が個別企業のサイトを閲覧している様子がうかがえる。3 番目は「大学内で開催された就職イベント」(54.9%)だが、前年 (66.4%) から 10 ポイント以上も減少しているのが目立つ。

就職活動準備でこれまでにやったこと



就職活動に関する情報の仕入れ先

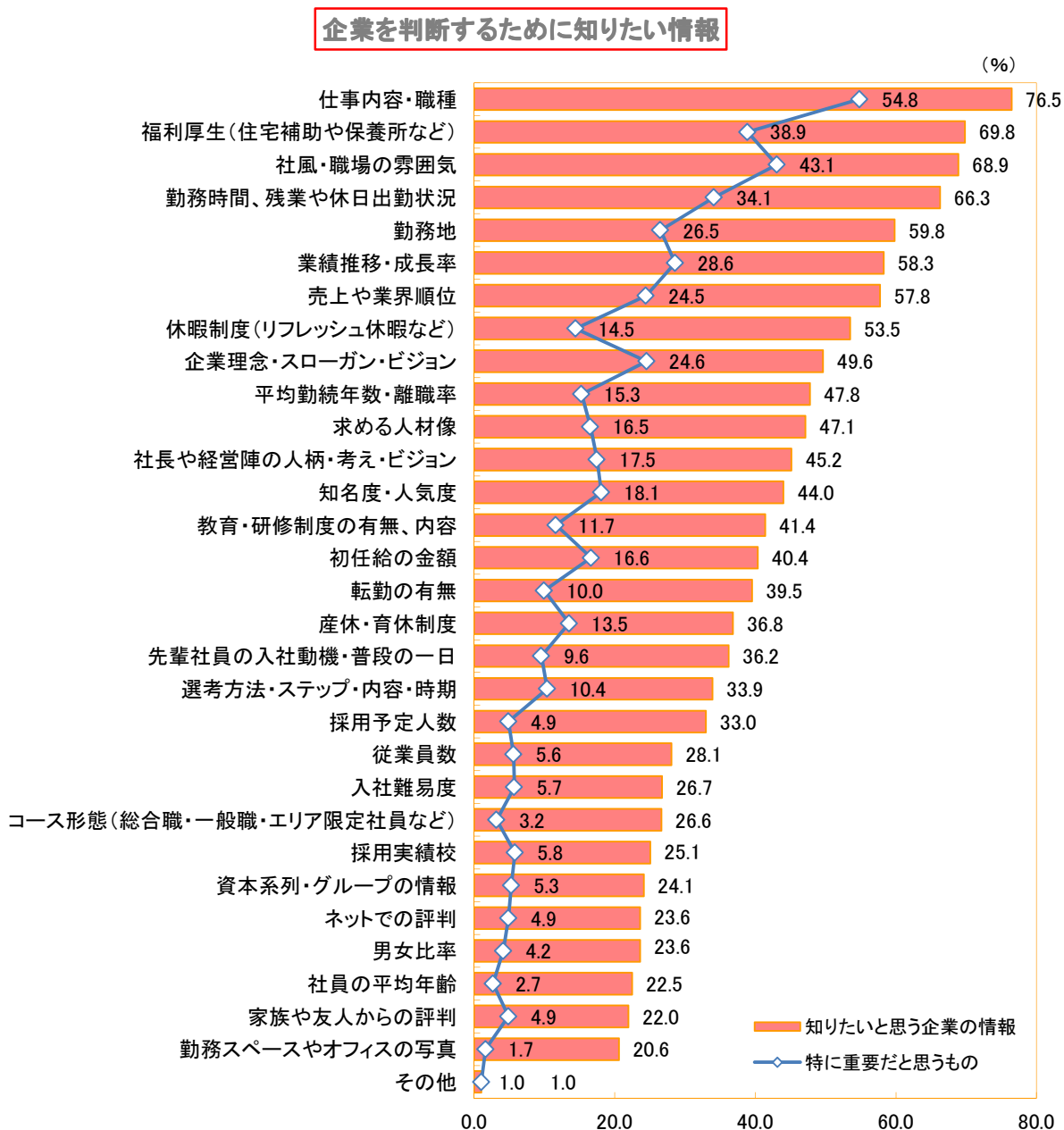


5. 企業を判断するために知りたいこと

11月の調査時点で企業研究や業界研究を始めている学生は6割強に上るが(グラフは5ページに掲載)、就職先の候補として興味が持てるかどうかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいと思うかを尋ねてみた。

あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは「仕事内容・職種」で、7割以上(76.5%)が選んだ。次いで「福利厚生」(69.8%)、「社風・職場の雰囲気」(68.9%)、「勤務時間、残業や休日出勤状況」(66.3%)と続く。

特に重要だと思うものを5つまでに絞ってもらると、最多は変わらず「仕事内容・職種」であり、就職活動前や初期の段階では、まずその会社にどのような仕事があるのかを知りたいという学生が多いことがわかる。採用情報以外の企業情報については、3月より前に公開が可能であるので(むしろ早期公開を推奨されている)、企業としては学生が事前に知りたいと思うこれらの情報をインターネットなどで積極的に打ち出していくことが求められる。

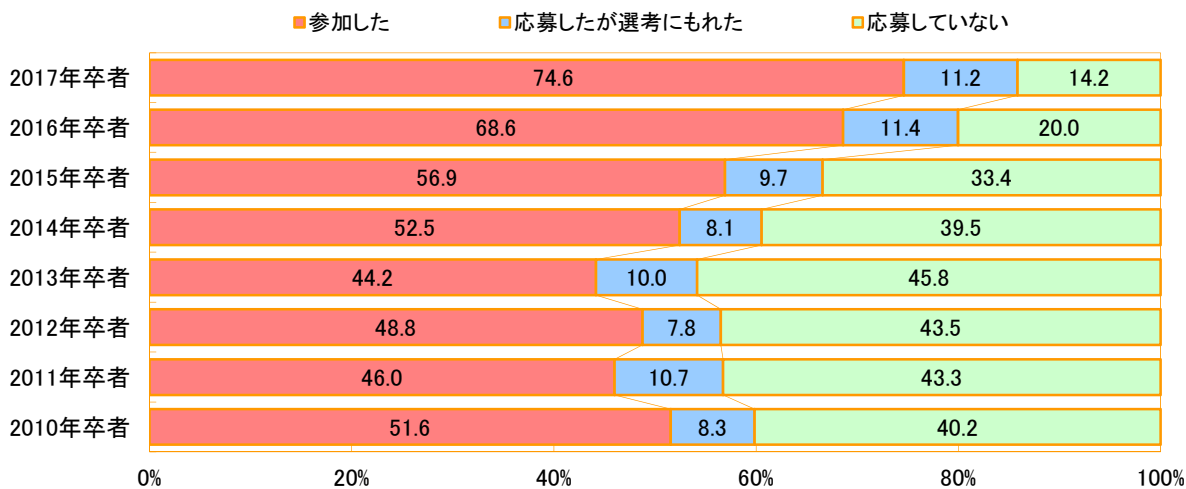


6. インターンシップの参加状況と今後の参加意向

インターンシップについて尋ねたところ、今回回答したモニター全体の 85.8% が応募経験をもち、実際に参加した学生は 74.6% と、前年より 6 ポイント増えた。採用広報開始前の早期に就職活動モニターに登録した意識の高い学生であることを差し引いても、多くの学生がインターンシップに強い関心を寄せていることが推察できる。昨年から実施企業が増加傾向にあることに加え、インターンシップを経験した先輩たちの多くが、優位に就職活動を進めていた様子を間近に見たことなども背景にありそうだ。

平均参加社数を見ると、ショートプログラムへの参加増が目立つ。1 日以内のプログラムが 2.4 社、2~4 日間で 1.4 社で、5 日間に満たないものが合計 3.8 社となり、前年 (2.6 社) より 1.2 社増加した。

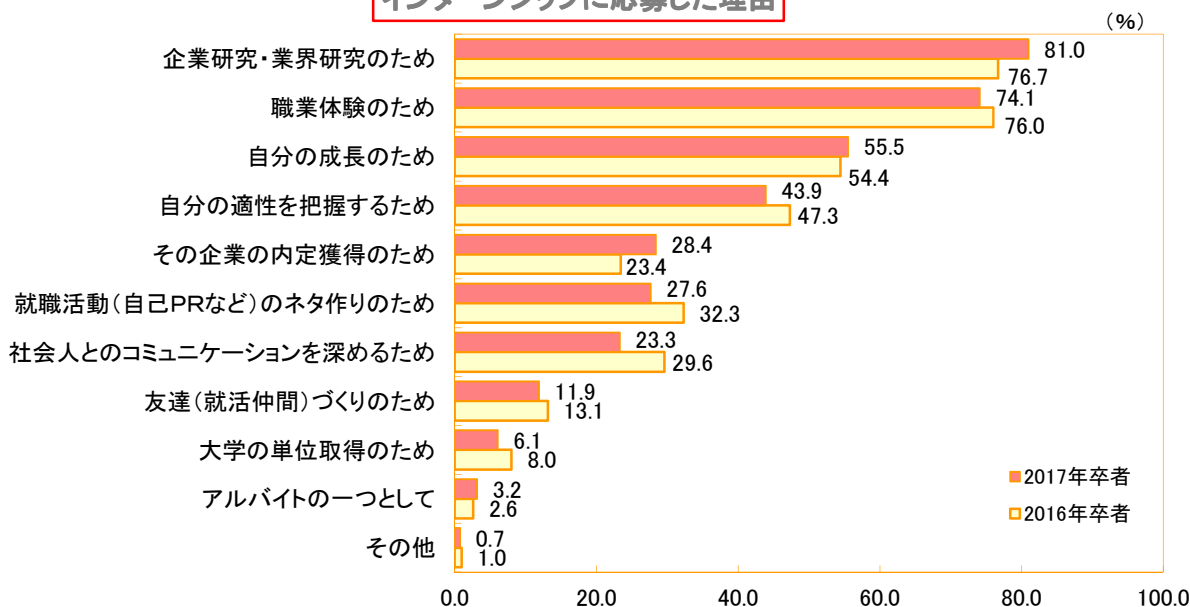
インターンシップ参加経験



インターンシップ参加社数/平均

	(社)						
	全体	(前年全体)	(前々年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	2.4	2.6	2.2	2.5	2.3	2.3	2.1
2~4日間のプログラム	1.4			1.5	1.4	1.4	1.3
5日間以上のプログラム	1.6	1.6	1.5	1.7	1.5	1.6	1.3

インターンシップに応募した理由



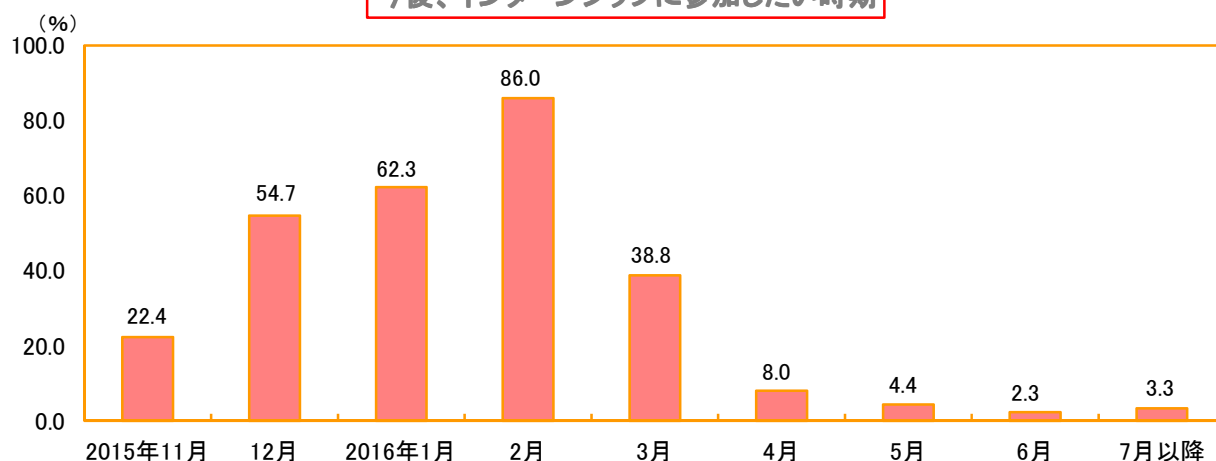
インターンシップの応募理由を複数回答で尋ねた (グラフは 7 ページに掲載)。最も多いのは「企業研究・業界研究のため」(81.0%) で、前年調査 (76.7%) より 4.3 ポイント上昇した。「職業体験のため」(74.1%)、「自分の成長のため」(55.5%) などを上回り、就職活動の一環としてインターンシップを捉える学生が大半と言っても言い過ぎではないだろう。

今後のインターンシップ参加意向については、9 割を超える学生が「参加したい」と回答しており (90.7%)、特に参加経験を持つ層で 93.9% と高い数字を示している。具体的に参加したい時期を尋ねると、「2 月」が最も多く (86.0%)、「1 月」(62.3%)、「12 月」(54.7%) の順だった。3 月の採用広報開始、つまり企業のエントリー受付が始まる時期までにより多くのインターンに参加することで、企業研究や業界研究を深めておきたいとの戦略が読み取れる。とりわけ今期は、選考解禁までの期間が 2 カ月短くなるため、早いうちに研究しておきたいという考えが強いのだろう。今後インターンシップに参加して得たい情報では、「企業情報」(88.9%)、「業界情報」(77.6%) といった結果だった。

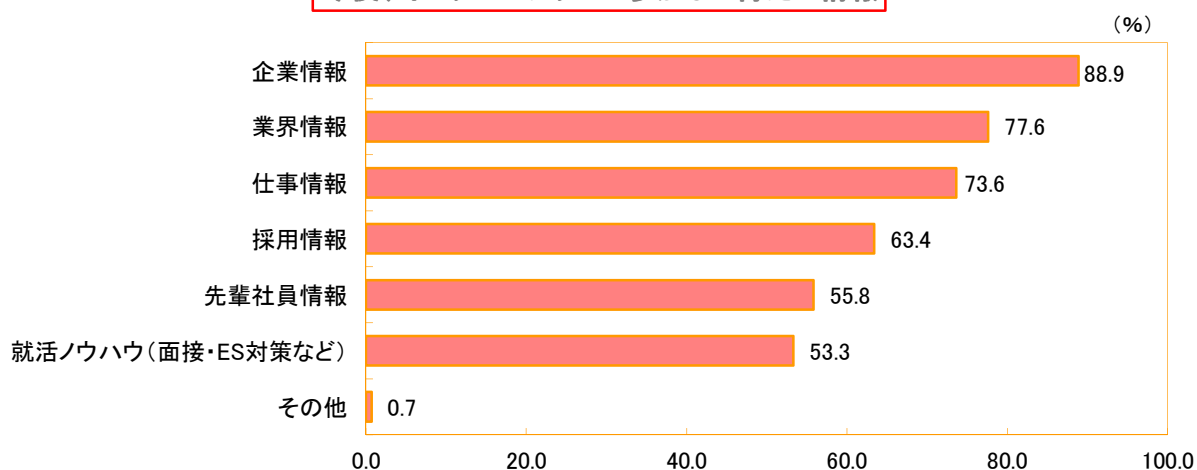
今後のインターンシップ参加意向

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	インターン経験あり	インターン経験なし
参加したい	90.7	90.8	93.0	88.8	87.4	93.9	81.6
参加したくない	9.3	9.2	7.0	11.2	12.6	6.1	18.4

今後、インターンシップに参加したい時期



今後、インターンシップに参加して得たい情報

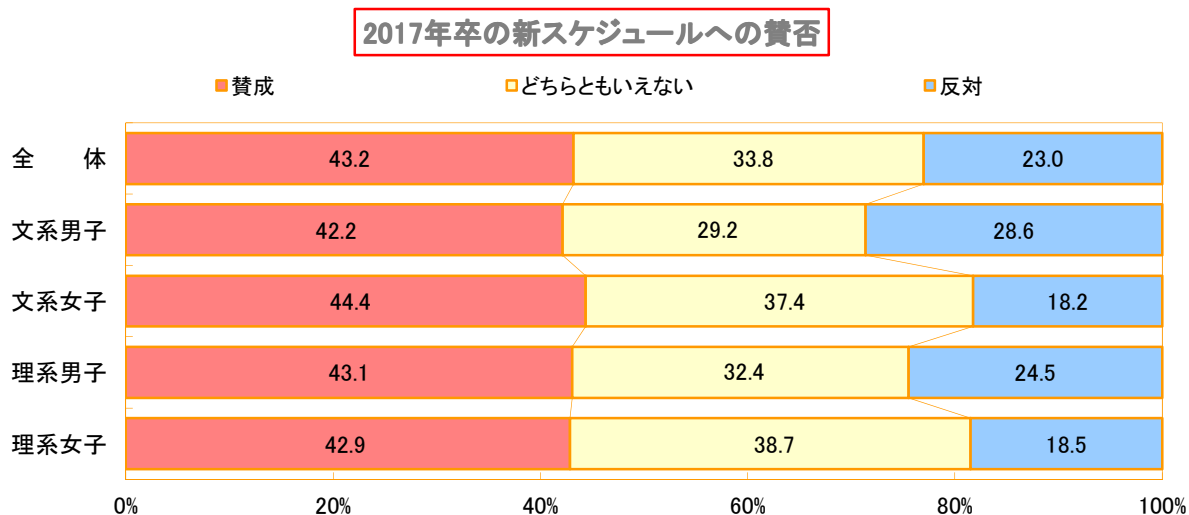


7. 新スケジュールへの考え

2016 年卒者に続き、2 年連続で採用活動のスケジュールが変更されることになったが、学生はどのように受け止めているのだろうか。選考解禁が 8 月から 6 月へと 2 カ月前倒しになったことについての賛否を問うと、「賛成」が 4 割強 (43.2%)、「反対」が 2 割強 (23.0%)、残りが「どちらともいえない」(33.8%) という結果が得られ、歓迎する学生の方が多かった。

賛成派が多いのは、選考時期が 2 カ月早くなることで就活期間の短期化が期待されるからだろう。寄せられたコメントを見ると、早く進路を決めて残りの学生生活を充実させたいとの意向が伝わってくる。一方で、反対派の意見からは、「急すぎる」「準備が間に合わない」といった戸惑いの声が目立つ。

このデータを文理男女別に見ると、「賛成」はほとんど同じ割合だが、「反対」は男子において数字が高くなっている。文系男子の 28.6%、理系男子の 24.5% が「反対」と回答した。



■賛成する理由

- エントリーと面接の間が短くなったことでモチベーションを維持できると思う。また、内定が出るのも早くなると思うので、早く決まれば気分的に楽になると思う。 <文系男子>
- 早い方が学生生活を他のことに割ける。なんなら、もとの 4 月がよい。 <文系女子>
- 8 月解禁は遅いうえに暑い。ルールを守らない企業や裏選考なども多く、選考自体がはっきりしないから。 <理系男子>
- 8 月解禁だと、修士論文に向けた研究や学会発表の機会が減ってしまうため。 <理系女子>

■反対する理由

- いくらなんでも急すぎる。もっと早めに決めてもらわないと、学生としては混乱するだけで、学生のためにはならない。 <文系男子>
- 昨年のスケジュールを参考に進める予定だったので、急に変更されると余裕が無くなり困る。 <文系女子>
- 教育実習とかぶるので困る。 <理系女子>
- エントリーから面接までのスパンが短すぎるから。 <理系男子>

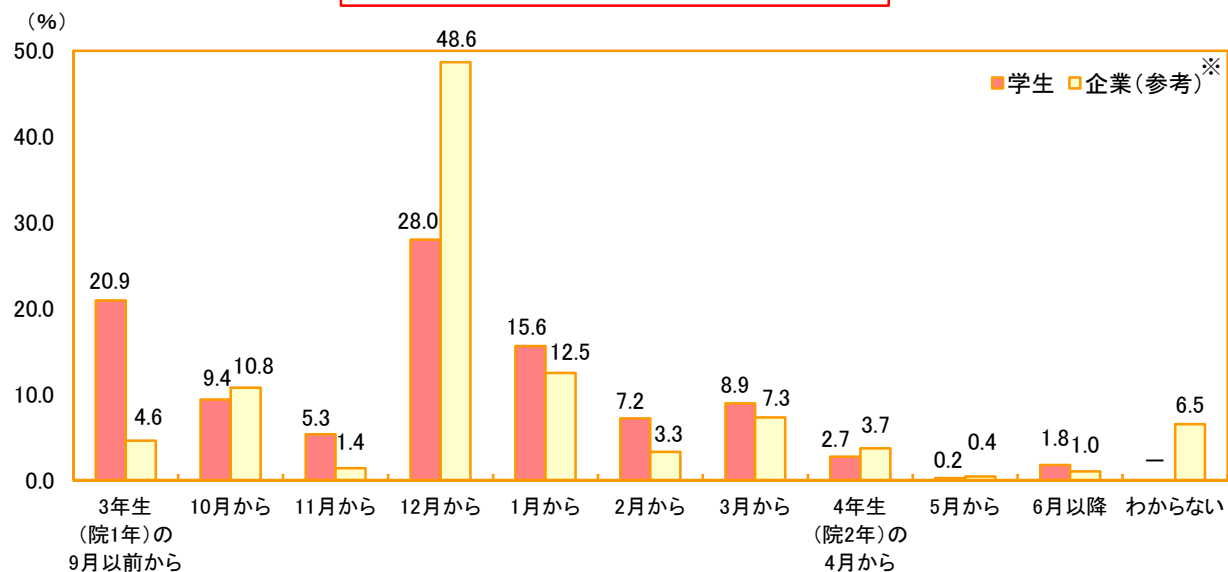
■どちらともいえない理由

- 暑い時期にリクルートスーツを着なくて済むのは嬉しいです。しかし、昨年に比べてエントリーから面接までの期間が短く、選考が集中したり準備が不足したりすることが心配です。 <文系女子>

そもそも学生は、企業の採用情報をいつ頃から見たいと思っているのだろうか。公開時期として望ましいと思う時期を尋ね、10月に企業に尋ねた結果と比較してみた。最も多いのは2015年卒採用までの採用情報公開時期であった「3年生の12月」で28.0%。次に多いのは「3年生の9月以前」(20.9%)で、2割強が3年生後期でも遅いと感じていることがわかった。現行スケジュールの「3年生の3月」の回答は8.9%にとどまった。

企業側でも「12月」が最も多く支持されるなど、現行よりも早期開始を望んでいるものの、「9月以前」は4.6%にとどまっており、学生の方がより早い時期からの公開を望んでいる様子が表れている。

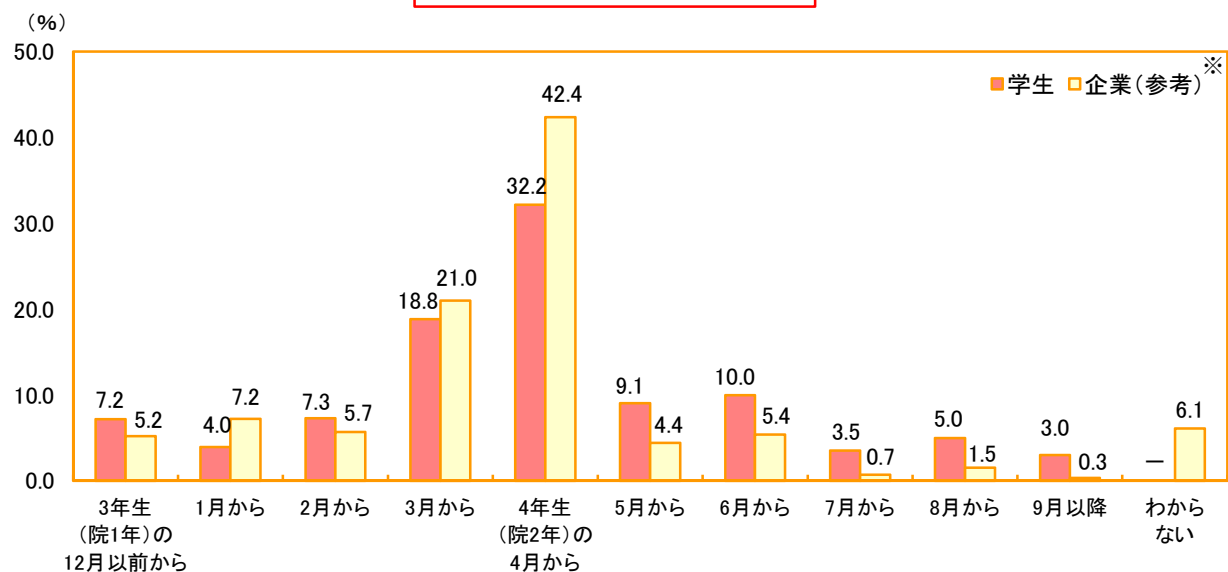
望ましいと思う企業の採用情報の公開時期



選考開始時期については、「4年生の4月」(32.2%)、「3年生の3月」(18.8%)の順で、6月よりも早い時期を望む声は合計して78.6%に上る。企業側でも「4月」が最も多く、学生・企業ともに、2015年卒者採用のスケジュールに戻してもらいたいとの考えもうかがえる。

全体的に学生の方が企業よりも数字が分散化しており、多様な考えを持っていることがわかる。

望ましいと思う企業の選考時期



※企業はHRフォーラムアンケートより(2015年10月、1244社)